



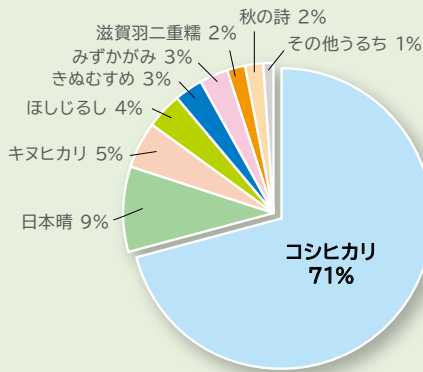
気象変動に打ち克つ米づくり

Part2 ~栽培のポイント~



コシヒカリの作期分散と高温登熟性の優れた品種の導入検討

田植日の分散による出穂や収穫の時期の分散や、品種特性を活かした品種の検討を行うことがポイントです。



(令和6年産 JA出荷申出データより)

高温登熟性に優れた品種	品種特徴	栽培期間
早生 みずかがみ	環境こだわり農産物認証必須 耐倒伏性・葉いもちに対する耐病性はコシヒカリよりも強い	5月上旬植 成熟期 8月下旬
中生 きぬむすめ	コシヒカリ並の食味 玄米品質・倒伏性・収量性が安定	5月上旬～中旬植 成熟期 9月中～9月下旬
晩生 ほしじるし	多収性 コシヒカリに近い食味 耐倒伏性は強く収量は日本晴れよりも多収	5月上旬～中旬植 成熟期 9月下旬～10月上旬

※上記の品種のほか、JAレーク伊吹では、品質・収量性に優れる品種「ZR1」の導入試験を行っています。

水管理

- ✓ 田植後の還元障害が発生している場合は、早期の技術対策が必要。
- ✓ 2週間以上の長期中干し作業により、土壌内のメタン発生を抑制し、根に酸素を供給する。
- ✓ 地温や水温の上昇を防ぎ、根に酸素を供給し根の活力を維持する。

施肥

猛暑年における穂肥施肥のポイント (コシヒカリの場合)

栄養不足のままでは、登熟しにくいいため、**籾への栄養を生育後半まで維持する**ため、稲の栄養状態の目安となる葉色を確認し、必要に応じて追肥を行う。

分施肥体系の場合

基本

1回目 - 2回目
出穂18日前 - 出穂4日前
2 - 2
kg窒素/10a

猛暑年は

出穂期の葉色が
カラースケール
4.0 以下の場合
2 kg (上限)
窒素/10a

一発施肥体系の場合

一発施肥体系の場合でも出穂11日前までに葉色がカラースケールで4.0以下となる場合は、窒素2kgを上限に追肥を行う。

今回は、温暖化による多発する病害虫対策のポイントを連載します。

営農指導活動

pick up 令和7年産 水稲 環境こだわり農産物認証に係る研修会の開催

環境保全型農業直接支払交付金制度が令和7年度に改定されるのに伴い、令和7年産水稲の環境負荷軽減に向けた取組の支援の一貫として、環境こだわり農産物認証申請対象者88名に対し制度の仕組み改定のポイントについての説明会を11月20日・21日に開催いたしました。

説明会では、従来から普及しているマイクロプラスチックを使用した緩効性肥料の代替肥料として、環境に配慮したウレアホルム肥料への転換や肥料の特徴について説明させて頂き、環境問題となっているマイクロプラスチックの削減に向けての普及活動を行いました。



営農企画課
山東統括営農担当者
林 篤嗣